

令和6年度 第1回
松本市・山形村・朝日村中学校組合
総合教育会議議事録

松本市・山形村・朝日村中学校組合教育委員会

令和6年度第1回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議

日時 令和6年12月25日（水）
午後1時から午後2時30分
会場 松本市役所 第一応接室

次 第

1 開会

2 あいさつ

3 懇談項目

部活動の地域移行に向けた1市2村の取組みと学校現場の課題

- (1) 鉢盛中学校における現状と課題（中川学校長）
- (2) 1市2村の地域移行に関する取組み紹介（伊佐治教育長、根橋教育長、百瀬教育長）
- (3) 意見交換

4 閉 会

◎懇談項目

○事務局長（赤羽志穂） それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議を開催いたします。

議事に入るまでの間、私、事務局長の赤羽志穂が進行を務めさせていただきます。よろしくをお願いします。

なお、本日の会議は公開とし、お手元の次第により進行させていただきます。

初めに、この会議を主催する臥雲管理者から挨拶をお願いいたします。

○管理者（臥雲義尚） 皆さん、お疲れさまです。

本年度の総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。そして、日頃から中学校組合の教育行政の推進に大変なご尽力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

この3市村中学校組合の昨年度の会議におきましては、学校に来づらい子供たちの支援を考えるとということで、不登校支援に焦点を当てて専門家の方からご意見を伺い、また現場の報告を伺って、有意義な意見交換ができたと考えております。

今日は、部活動の地域移行、これについて取り上げさせていただいて、まず中川学校長から鉢盛中学校における現状と課題についての説明をいただいて、3市村の教育長からは現在行われている取組をお聞きして、そして意見交換をさせていただきたいと思っております。

これまで中学校の部活動というのは、教職員の皆さんの献身的な活動に支えられて、無償に近い形で運営をされてきました。そのこと自体は、昭和から平成にかけての日本の子供たちの心身の育ちという意味で非常に意義があったというふうに思っておりますけれども、様々な教職員の皆さんへの業務の負担や、あるいはそれぞれの地域に人口や環境において偏りが起きて、結果として子供たちにひとしくスポーツや文化の活動を経験してもらう環境を整えることが極めて難しくなると。そういう事情の中から、このクラブ活動への移行と、こういうものが進められているところでございます。

私たちとしましては、子供たちがより質の高い活動に参加できる機会を広げていく、そうした視点に立って、このクラブ活動への移行と、こういうものを積極的に進めてまいりたいと考えているところでございます。もちろん生活が困難なご家庭に対しましては、引き続き参加費の活動の支援を行うなどしまして、誰もが安心して参加できる仕組みづくりということを進めてまいりたいと思っております。

ぜひ今日は皆さんと認識を共有して、そしてこれからの子供たちにとってよい方向性を示せるように、自由闊達な意見交換ができればと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局長（赤羽志穂） 続きまして、伊佐治教育長からご挨拶をお願いします。

○教育長（伊佐治裕子） 皆さん、こんにちは。

年末のお忙しい時期にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいま管理者のほうから、部活動の地域移行の持つ意味、その見直しの持つ意味ということでお話をいただきました。私もつい最近、驚いたことがありまして、それは令和5年度から国がこの部活動の改革の推進期間ということで、期間を定めて進めてきた、私たちもその国の指針ですとか、有識者の会議の結果に基づいていろいろな見直しを進めてきたわけですけれども、つい先日、国の改革の実行会議というところが中間まとめということを出しました。

そこに書いてあったことは、今度は令和8年度から10年度まで、これを改革実行期間の前期、それから11年度から13年度までを後期の改革実行期間というふうに定めて、合計すると6年間ですね、この6年間で全てが移行できるようにやっていくことが必要というようなことで、私たちにしてみれば、これは早急にやらないと教員の働き方改革につながらず、子供たちに様々な充実した環境をつくることもできないので、急いでやらなくてはいけないということで取り組んできました。そこで国の会議がこのようなことを示したことで、何となくはしごを外されたように感じましたが、そのまとめの内容をじっくり見ていきますと、実はまだ改革自体に取り組んでいない自治体もあるということの実態が分かってきました。この鉢盛組合の鉢盛中学校をはじめ、松本市内の学校も、それぞれ課題がある中で、頭を悩ませながらよりよい方法を探っているわけですが、まだそういう自治体もあるという中で、国ではそういうことを示さざるを得なかったのではないかとこのように思います。ただ、子供たちや先生方の実態を見ますと、この鉢盛の議会でもご相談をしてきたとおり、令和8年度を目標にこの移行を進めていくことが改めて必要なことというふうに感じております。

そんな中、この鉢盛は、1市2村という、自治体が3つ集まってつくっている組合、その組合の下にある中学校ということで、単体の自治体が進めるのとはまた違った難しい課題もあるかと思っています。今日、前半ではそれぞれの教育長から現状報告をすることになっていきますけれども、中川校長からの中学校の現状と併せて、この組合の中学校が抱える課題、それから今後の方向性についてご説明をさせていただきたいと思います。皆さんに忌憚のないご意見を聞かせていただいて、意見交換できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局長（赤羽志穂） それでは、これより議事に入ります。

本日は、部活動の地域移行に向けた1市2村の取組と学校現場の課題をテーマに、鉢盛中学校における現状と課題を中川学校長から説明し、続いて、各教育長から地域移行の取組状況について報告いただきます。

それでは、中川学校長からご説明をお願いします。

○学校長（中川満英） それでは、本日もよろしくお願いいたします。

それでは、資料に沿って説明のほうをさせていただきたいと思います。

それでは、1ページをお開きください。

部活動の地域移行、現状と課題ということですが、このような経緯でここまで進んできているということを発表させていただきたいと思います。

これまで、先ほど教育長もお話ありました推進期間ということを受けまして、7月下旬までのところから、校内でプロジェクトチームを発足し、計3回、先生方と会議を行ってきました。その中で、各先生方の思い等を含め、また実際に生徒の状況等を鑑みながら、以下の方向性で支援していくことを確認してきております。

今後の方向ということで、とにかく今入学している1年生、この子たちは令和8年度には3年生になるわけですけれども、部活動を引退する時期まで、この後お話しいただける鉢盛クラブがもし立ち上がっていない場合でも活動や大会参加ができるように、先生方みんな学校としてサポートしていこうじゃないかということは共通しております。

その後、8月21日にそこのところも再度確認し、9月13日には、鉢盛中学校スポーツ文化運営委員協議会において、PTA役員や各保護者会長、市町村教育委員会の代表者の皆様と共に、資料を使いまして情報共有、意見徴収をさせていただきました。

また、10月17日には、部活動所属の生徒、このときにはもう1、2年生になっているわけですけれども、部活動地域移行の説明会を行いました。

また、10月22日には、保護者を対象に、当日は参観日でありましたが、説明をさせていただいております。

また、11月7日には、今の小学6年生（令和7年度新入生）を対象に、部活動地域移行の説明を児童の皆さん、また保護者の皆様に実施をしました。

そのようなところで、次は2ページであります、そのときに使った資料のところをご覧くださいと思います。

令和8年度から休日の部活動が地域クラブに移行するということを、まず共通して説明させていただきました。1つ目には、鉢盛クラブができるというようなところ、その具体につきましても、今回の資料にはありませんけれども、説明をさせていただきました。また、鉢盛クラブが発足した部活動から休日の活動は鉢盛クラブで行うということ、3番目として、もし鉢盛クラブがそこまで設置できない部活動も、令和7年、来年度の新人戦が終わるまでは、これまでどおり休日も中学校の部活動として活動していきますということ、また、令和9年度からは平日を含めて活動はしないということ、もし入部希望者がいなくなった時点で、それ以降の募集は停止するという事等を説明させていただきました。

そして、そこの下のほうにあります鉢盛中学校各部活動、地域移行化の見通しということですが、部活動のところ、1番目の野球から、それぞれの部員数を載せさせていただいておりますが、野球は1年生がゼロで、2年生が現在1人ですが、活動を合同部活とともに実施をしております。2番のサッカーのほうは、2年生は12名おりましたが、1年生が現在1名というところ、その他バスケ、バレーとありますが、6番の女子バレーは1年生が入

部が2名ということで、このままではちょっと心配な部分があるということ、また10番の陸上のところは、2年生が14名ですが、1年生は3名というところ等、そのようなところ、また文化系活動のほうもそこにあるとおりであります。

そして、令和7年度秋冬まではこれまでどおりということですが、令和7年度秋冬以降、いわゆる新人戦等が終わったところから、平日は部活動として活動するけれども、休日は鉢盛クラブに移行していくということを説明しております。中には陸上のように、既にまつもとTFCとして地域クラブに参加しているというようなこともございます。

そして、令和8年度の夏秋になりますと、平日、休日も鉢盛クラブへというところを、運動部、文化系部活動ともにそのようにして説明しております。

現在の課題としましては、各部ごとにありますが、野球のほうは先ほどの合同部活と地域クラブ、サザンベースボールスクールが発足しております、そちらのほうに参加していく方向で、サッカーのほうは地域クラブが多数あるということで、そのサッカー一部の1年生の1名も地域クラブのほうに行くということで保護者、本人とも確認をしております。その他のところ、陸上もありますが、ほかのところもとにかく指導者が必要というところでありまして、活動の部員数も含めまして、その指導者をどのようにしていくかということが大きな課題になっているということでもあります。

私からの説明は以上であります。

○事務局長（赤羽志穂） それでは、引き続き伊佐治教育長から順に、取組状況の説明をお願いいたします。

○教育長（伊佐治裕子） それでは、私のほうからは、主にこの中学校組合としての部活の地域移行の取組について報告をさせていただきます。

事前にお配りした資料から差し替えを行いまして、画面に映し出しているものをお手元にちょっと大きく1枚資料で、水色のペーパーになりますが、お配りしてありますので、そちらのほうをご覧ください。

この鉢盛における部活の地域移行については、教育委員の皆様とは昨年11月以来、いろいろなところで話し合いを行ってきましたけれども、主にこの鉢盛議会ですね、組合の議会における地域移行の検討経過ということで、私のほうから冒頭、状況を説明させていただきます。

まず、昨年の令和5年11月ですね、このときは11月の定例会の協議会後に、松本市の取組を基に、部活動の地域移行に関する説明会というレベルでのお話をさせていただきました。地域移行の制度の概要についてまだご存じない委員さんも多いという中で、この地域移行の概要、それから松本市が行ったアンケート結果の報告ということもさせていただきました。そこで、議員の皆さんからいくつかのご質問をいただいたわけですが、そこでは指導者の量と質ということについての質問がございました。

そして、年が明けまして6年2月の定例会、これは管理者も出席をいただいた定例会にな

りますけれども、この定例会の一般質問で、朝日の羽多野議員さんから一般質問をいただきました。まさにこの部活の地域移行についてどのように進めていくのかということで、その内容において、この米印のところにありますけれども、鉢盛中学校の部活の地域移行の今後の方向性の説明が不十分ではないか。その時点では、鉢盛はこういうふうにやっていますということはまだその時点では説明をしなかったんですが、不安なこともあるということで、そのようなご指摘がありました。

それから、地域移行をした際に、鉢盛という広域の子供たちが集まるということで、送り迎えのことですとか、そういったことも含めた保護者負担についての質問がありまして、答弁をさせていただきました。

その後、並行して、教育委員会の事務局の事務レベルでの打合せを、今年の1月から8月まで計5回行って、様々な課題の抽出を行ってきました。その課題の抽出などを基に、今年の7月の定例会、ここの議員協議会で、この鉢盛中学校における部活の地域移行について、こういう方針で進めていきたいということを協議いたしました。そこでは、来年度に向けて、その支援策として総括コーディネーターを置いて、鉢盛らしい地域移行ができるようにということでご相談をし、一応承認というふうに集約がされました。

その後、この課題について引き続き検討してきたわけですが、令和6年11月、先日の定例会の議員協議会において、再度、先ほど説明をしました総括コーディネーターの在り方に少し課題があるということで、このコーディネーター1名の配置という方針から、民間事業者に業務委託をする、その方針に変更したいということで協議をいたしまして、承認というふうに集約されました。

大体の概要としてはこのようなこととなりますけれども、ではどういう課題があって、そしてそれをこのように集約してきたその経過を説明したいと思います。

会議、これは主に実務者レベルでの会議、それから教育委員会でも協議をしましたが、浮き彫りとなった課題ということでもあります。

まず、1点目は、何といたっても鉢盛の場合、地域特有の地理的課題ということですが、鉢盛中学校の学区は広域にわたるため、その拠点を置いても、拠点までの移動問題ということがあります。自転車通学の子供たちが9割を占める現状では、さらに遠距離の移動が必要になる、例えば松本に既に立ち上がっているクラブなどがあっても、現実的に子供たちがそこに通うのは難しいのではないかとということです。

そこで出てきましたのが、右側のところにラインボックスで囲ってありますけれども、鉢盛中学校を会場としたクラブ活動の展開、これをベースにしていくべきではないかということが出されてきました。

それから、2点目、複数自治体間の調整ということですが、これは冒頭、先ほども申し上げましたけれども、3つの自治体で構成される組合のため、それぞれの、例えば子供たちですとかクラブへの支援金というような補助制度があります。松本市では既に予算化をして執行

を始めていますけれども、こういったものを始めていくときに、それぞれの自治体の中で予算を取っていただいて、均衡を取りながら進めていく必要があるだろうということがあります。

これについては、事務レベルで調整をして、その黄色のボックスにありますとおり、このような補助金の制度を予算を取っていく方向で今調整をしているところです。

それから、3点目、指導者の確保と管理ということです。これは鉢盛に限らず、どこの学校でも、そして自治体でも課題となっているのですが、鉢盛の場合は広域的なエリアということで、これがまたさらに難しい課題があります。校長先生のほうからは、今現在、部活動指導員ということで、外部の方が顧問に代わって学校に入って指導をいただいている方が何人かいらっしゃいますが、この方たちに声かけをしても、子供たちが集まっているところに入って指導そのものをするにはできるけれども、地域クラブを自分で立ち上げて、それをマネジメントしていくということについてはちょっと無理だということで、校長先生のほうから、クラブ立ち上げまでをその方たちにお任せするのは難しいというふうな現状をお聞かせいただきました。

そのようなことから、4番、ここに財源・運営体制とありますが、主には2つ目の黒ポツ、一番下の項目となりますが、クラブ運営のマネジメント支援が必要だろうということになりました。このことを解決するために、先ほど申し上げましたように、事務的なサポートを行うコーディネーターを配備していこうという方針を一旦決めました。

次のページをお願いします。

このように会議を経て、皆さんで描いたこの鉢盛中学校モデル、当初の案がこちらになります。ちょうど真ん中に、青いところに鉢盛中学校というふうにあります。鉢盛の場合には、鉢盛クラブという形で中学校を会場にして、なるべく子供たちの移動に負担をかけない、このような地域クラブを立ち上げていくことが望ましいのではないか、そしてその鉢盛クラブの指導者と子供たち、そして各家庭を結ぶ、そのようなコーディネートを行うコーディネーターを、上の赤い四角の中にありますけれども、地域クラブ連絡事務局ということで、統括コーディネーターを置くということを検討いたしました。

ただ、これも、一旦7月の議会でお認めいただいたわけなんです。その後、事務レベルでの話し合いを重ねる中で、次のような課題が出てきました。5点ほど上げてありますけれども、例えばそれぞれのクラブの立ち上げの創設支援、それからクラブの運営管理、そして指導者・スタッフの管理、それから指導者を見つけてそれをコーディネートしていくという業務、それから会員募集と登録、会員管理ですとか、それから5番にあります会費の徴収と管理という、このような幅広い業務を行うということが想定されました。

そこで、一番下にありますけれども、これだけの業務をたった1人のコーディネーターが担うのは困難、またいろいろなお金を扱うことになってきますので、リスクもあるのではないかとということで、民間事業者への業務委託ということで、ノウハウを持った事業者を探し

ていこうということで変更しまして、11月の議会の協議会でそのような大まかな方向性は認めていただいております。

そのほかに、今、この鉢盛の子供たちにアンケート調査を行っています。これは議会でもご要望があったということで行っているものですが、これは速報ということになりますけれども、地域クラブ、これが鉢盛中学校内に立ち上がる鉢盛クラブとして創設された場合、参加をしてみたいですかという質問に対して、6割の子が「参加してみたい」と回答をしています。そして、どんな種目のクラブだったら入ってみたいかという問いに対しては、ご覧のようなスポーツ系、文化系、それぞれ順番に並べてありますが、運動系ではバスケットボール、文化系では圧倒的に吹奏楽が多いということでした。

それから、下の黄色のところになりますけれども、「参加したくない」と回答した児童生徒のうち、約40%は「地域クラブに入らずにほかの活動をしたい」、それから「すでに行きたい地域クラブがある」というふうに回答をしていました。それから、約半数に当たる児童生徒が「やりたい種目があるかどうかわからないから」というふうに回答していますので、今後そのような、どういう種目があるよということをリストのような形でお示ししていくことも必要かなと感じているところです。

それから、もう1点、先ほど圧倒的に人気が高かった吹奏楽ですが、吹奏楽の部活をクラブ化していく、このことについては様々な課題があります。ほかのスポーツ、ほかの種目よりも一番大きな課題があると考えています。これはほかの自治体、松本市でも同じです。ここに6点ほど上げてありますけれども、これはほかの種目にも通ずることが多いんですが、吹奏楽に特化して一番課題と考えているのが2番になります。学校の備品になっている楽器の管理、それから維持ということです。例えば、楽器の購入費用や維持費をどうしていくかですとか、管理責任の所在です。それに伴って、6番にありますセキュリティ対策ということで、時間外に先生の手を煩わせず音楽室に入室をして練習をするというようなことのハード的な整備も必要になってくるといふふうに考えています。

それから、もう1点、1番にありますけれども、吹奏楽というバンドを指導していくとなると、かなり専門知識や指導経験を持つ方が必要ということで、かなりこの人材を探していくのも困難を極めることと考えております。

最後に、松本市の社会体育の団体ということで、受入れをしていただける団体があるかということで、今井地区の地域クラブの状況を報告してあります。総合型地域スポーツクラブ「きらり鉢盛」という名前で、卓球、バドミントン、それから陸上の3種目があります。いずれも大会出場を目的としない健康志向クラブということで、意向を伺ったところ、中学校が練習に来ることは可能だけれども、クラブにしていけるのはやはり難しいというような回答をいただいております。

それから、2番目にあります鉢盛中学校での部活動指導員ということで、これは現在、指導員を充てるのに国庫補助などもあるわけですがけれども、現在、吹奏楽、バレー、卓球、バ

スケッチボール部で部活動指導員が活躍いただいています。ただ、実はバスケットボール部は学生アスリートということで、松大の学生さん2名に来ていただくことになっていますが、実はその学生さんが自転車でこの鉢盛まで来なくてはいけないということで、先ほど冒頭説明しましたとおり、距離的な要件ということがネックになって、なかなか来ていただけないような実情があります。

私からは以上です。

○教育委員（根橋範男） それでは、お手元の資料は7ページからになります。

山形で取り組んできた主な内容ですけれども、今年の6月に定例の教育委員会の中で、教育委員さんに、松本市部活動地域移行推進計画の概要版を使わせていただいて、部活動の地域移行はこういう内容ですという説明をして情報を共有するというを行いました。

7月につきましては、松本市、山形村、朝日村の教育委員会の事務局の中で取り扱った、鉢盛中の部活動地域移行についてという内容について、この会議に出席したという内容です。

それから、8月29日に、山形村と朝日村の教育委員さんで部活動の地域移行についてさらに詳しく内容等を確認し合うということで、研修会を朝日村を会場に行わせていただきました。

それから、9月25日には、松本市の今井、それから山形村、朝日村で活動するスポーツ・文化の関係の団体の皆さんにお集まりをいただきまして、部活動地域移行に関する説明会を合同で開催をさせていただきました。それで、地域移行に関する説明を一通りした後、地域クラブとして受入れ可能団体の方はぜひ登録してほしいということでお願いをした会議になります。

それで、10月24日には、朝日村を会場に、ここも事務局レベルになりますが、もう一度県の部活動の地域移行の考え方ですか、スケジュールとか目的等を改めて学習し合う会議というのをやっております。

10月29日ですけれども、山形村の定例の教育委員会の中で、部活動地域移行に向けた支援策、先ほど伊佐治教育長のほうで話があった、松本市で既にやっておられます部活動の地域移行に関する補助制度を山形村でも創設していくための考え方を説明しています。

それから、つい最近ですが、12月20日に小学校5年生へのアンケートの実施、それから12月18日に議会の協議会のほうへ補助制度に関する説明を行っております。

それと、議会の一般質問の中で、議員さんのほうから9月5日の一般質問で、中学校の部活動地域移行についての質問がされております。統括コーディネーターに関するものと、それから指導者の育成確保に関する事項について質問をいただいており、答弁した内容は記載のとおりです。

めくっていただいて8ページになりますが、山形村で現在、スポーツ団体や文化団体の関係で活動をして、村のほうへ登録されている団体は、スポーツの関係で17団体、文化団体の関係では、文化団体連絡協議会のほうへ加入している団体数が11、それからミラクラブとい

うところへ加入している団体が14という数があります。

それで、これだけの数があるのですが、現在部活動の地域移行で地域クラブとして登録してもよさそうだとやっているところが、スポーツと文化の関係含めて6団体になります。種目でいきますと、スポーツでは、確定ではないですが、バレー、剣道、ラグビー、柔道、この4つの競技が地域クラブとして活動していてもよさそうだといいところです。ラグビーは確定のようです。それから、文化活動の関係になりますと、和太鼓、ここは確定のようです。それとあと生け花とフラワーアレンジメントもほぼ確定とのことでした。

事務局のほうで直接その団体の長の皆さんとか指導者の皆さんのところへ声かけをしていますが、なかなかいいよというところまでまだ至っていないという状況です。やっぱり課題としては、地域の中でなかなか地域クラブとしてやってもいいというところが出てこないというのが課題になっていますし、また指導者の確保というところも大きな課題になっているという状況です。

引き続きお願いをしていくことと併せて、補助制度のほうは要項の制定と、来年度の予算確保に向けて予算を新年度予算に上げていくということで、来年の4月1日施行を目指して今準備をしている状況です。以上です。

○教育長職務代理者（百瀬史郎） それでは私のほうから、朝日村における地域移行の取組、対応をお話させていただきます。

朝日村は、今お話がありました山形村とほぼ同様に動いておりますので、重なるところもあるかと思いますが、よろしくをお願いします。

まず、ページでいえば9ページのところからお願いをしたいと思います。

今年に入って、先ほど伊佐治教育長から話がありましたように、議員さんからの地域移行に向かう不安、あるいはどう進んでいるのかというような話もございましたので、村議会において、7月に移行計画の説明を行っております。

また、7月29日には、中学校の部活地域移行について、校内の説明、話し合いが行われました。

続いて、8月に入って、先ほど話が山形村からありましたけれども、山形村と朝日村の教育委員会合同の研修会を開いて、鉢盛中学校の中川校長先生、また小岩井教頭先生にも参加していただいて、これまでの経過、あるいは方針、進め方など、鉢盛の取組について協議をいたしました。両村の委員の皆さんには、おおむねご理解をいただけたと考えております。

続いて、9月25日でございますが、3市村の合同で、それぞれの地域で活動している団体、スポーツ・文化団体の代表にお集まりいただいて、地域移行に向けた説明、それから受入れ可能団体の確認等がなされたわけでありまして。

資料、次のページの下段になりますけれども、10月に入って、県の部活移行の総括コーディネーターと山形村、それから朝日村で合同の検討会が開かれました。県からは、保健厚生課の和田指導主事ほか3名がおいでいただいて、現在の進捗状況などを確認し合ったとこ

ろでございます。

11月29日には、朝日小学校5年生への部活動の移行の説明会を行うとともに、5、6年生等のアンケート実施を行っております。その結果は先ほど伊佐治教育長から話があった内容でございます。

それから、12月13日には、議会のほうで地域移行に向けた補助金制度でございますね、先ほど松本のほうから話がありました創設支援補助金、それから生活の困窮者の支援補助金、さらに資格取得補助金、この3つについては朝日村でも松本市と同様に考えているということをお話の皆さんにお話をいただいております。これについては、来年度に向けた当初予算に盛り込んでいく予定でございます。

また、サークルの団体の登録の動きでございますけれども、現状としては登録するであろう団体は数個というような段階にありまして、特に今、手を挙げていただけそうなものはソフトテニスであります。また和太鼓等や合唱等も声は出ているところでございます。ただ、何分やはり村でございますので、数は幾つかあるわけでありまして、こういった中学校を受け入れて活動のほうで大丈夫だと言ってくれる団体は若干少ないと、弱い傾向が見られるというのが現状でございます。これからの働きかけ、あるいは支援等がやはり必要かなというふうに踏んでおります。

以上であります。

○事務局長（赤羽志穂） ありがとうございます。

ここからの意見交換の進行は、臥雲管理者にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○管理者（臥雲義尚） 今、学校現場での取組について、中川校長から、そして3市村の行政側の受皿づくりのことについてそれぞれの教育長からご説明がありました。これまで報道ベースで全国的にでこぼこがありながら進んできていることを耳にされていると思いますけれども、改めて鉢盛中学校、そして3市村の取組状況をお聞きになって、それぞれのご感想からお伺いできればと思いますが、村山委員、保護者の立場からいかがでしょうか。

○教育委員（村山晴美） 村山です。

鉢盛クラブということで立ち上げをしていこうというお話があるのは、全校生徒数も決して多くない学校、しかも3市村ということで組合立ということで、足並みをそろえながらやっていくことの難しさがある中でこういう活動を立ち上げていただけているというのは、保護者からするととてもありがたいと思っています。

朝日村、山形村さんにとっては村にとって1つの学校、1か所ですけれども、松本市にとっては多くある学校の中の1校であって、子供たちにとっては、組合立であろうが松本市立であろうが同じ中学校に通う子供、自分たちということを考えますと、自分たちがどういう活動があるのかといったことのよりどころにもなっていると思うので、非常にありがたいなということと、あと、度々広域的な学校だというふうに、なのでこういうクラブというもの

を立ち上げますという発想につながってくださっているのですが、松本市のほかの中学校に対しては、1つの中学校でクラブというものが立ち上がる場所はないと理解しているんですけども、その中でどこの地域クラブでも自分たちが選べるよとなった場合、松本市の東の端から例えば鉢盛クラブを選ぶとか、割と西側のほうの学校の近くにある地域クラブを選ぶということもあり得るわけで、広域性といったところにすごく固執というか、特化することではないのかなという、違和感を少し感じながら毎回お聞きしてきたところを今回触れさせていただこうかなと思います。子供たちにとっては、何を自分たちが選べる環境にあるのかなということが大事なのかなというふうに思っているところがあります。

あと、送り迎えということが大変だということで広域性というお話もあるんですけども、今触れましたように、どこを選んだとしても送り迎えが必要になるという理解、例えば鉢盛は朝学校に自転車で行く子がほとんどです。こういった冬の期間は特に、部活を日が暮れてまで時間でやりますよとなった場合は、自転車で帰ることはやめましょうということで、保護者が迎えに行きます。鉢盛クラブになった場合はもうそれが大前提なので、朝も送りですか歩いていきなさい、帰りは保護者が迎えに来ますというようなお話を前提にされているのか、その辺は学校から直で鉢盛クラブに行くということを是とすれば、その帰りについてはどういう捉え方をするのかとか、その辺が少し今後気になるところかなということを感じています。

あと、もう1点ですと、部活動がなくなるという大前提の下に進んでいます。教職員の皆さんの働き方改革というところから、あと学校の運営というところからお話が始まっているのですが、今の通っている子供たちにとっては、学校の部活がコミュニケーションの一つになっていることは確実にあると思っています。学校の授業を中心にした時間帯でのコミュニケーション、そして部活を通じたコミュニケーション、それは子供たち同士のコミュニケーションと、教職員の皆さんとのコミュニケーションというものが形成されているというふうにご子供が通っている中で感じています。その中の一つの部活動ということがなくなったとき、それを通じて行われていたコミュニケーションを、どういったところでカバーできるのか。学校の教育を充実させるということを考えているというふうには書いてありますが、どのようなところにそれが反映されていくのかといったところは今後並行して示していただきたいところかなというふうに感じているのが今思っている感想です。

○管理者（臥雲義尚） 村山委員、ありがとうございます。

幾つかいただいたポイントで、私からちょっと概括的に、松本市で今取組を進めていることについてのお話をさせていただくと、一言で地域クラブといっても、様々な形態があると思っています。それはそれぞれの学校の規模や、あるいはそれぞれの今の学校の部活の種類ということも一つ要因としてありますし、また松本市の場合は、中心市街地から平成の大合併で一緒になった地区、そうした地域性にも極めてばらつきといいますか、環境がそれぞれ違います。また、一つ一つのスポーツ、あるいは文化活動の種類を見ても、かつては人気種

目だったスポーツが、今はもう単体の学校では部員が集まらないといったものから、あるいは全市的に見ても、子供たちは活動として希望をしていますが、そもそもあまりその部活がないといったものもあります。そうしたことをいろいろ頭に置きながら、幾つかのパターンをこの2年ほどかけてモデル地区とかモデル種目とかモデル学校という形で取組を進めてきました。

改めてこの鉢盛モデルとはその中でどういうモデルかということで、私自身の受け止めとしては、限りなく従来の部活動を継続させながら、継続というのは施設という面でいけば学校のグラウンドや体育館を使う、あるいは指導者という面でも、これまでの学校の先生方が継続される方は継続するという意味で、極めてこの鉢盛モデルというのは、少し荒っぽい言い方をしますと、移行するようで移行しないクラブと、こういうような形なのかなと思うのです。

それでは、何も変わらないのかといえば、やはりそうではなくて、学校のグラウンドや体育館や教室を使って活動をするけれども、今まで全ての子供たちが必ず参加するといっていたものが、クラブに移行すれば任意制になって、参加しなくてもいいですよということになるし、また先生方も、全ての子供が参加する、全ての先生が何らかの担当になるということではなくなるということ、そして今度は子供たちも、鉢盛中学校以外の生徒で鉢盛クラブの活動に参加したいという子供たちは参加できるようになるということ、逆に鉢盛中学校の生徒でも、この鉢盛クラブではなくて、ほかの地域にあるクラブに参加できるようになるということ、選択の自由がそれぞれ広がるということ、そして指導者の、先生方以外の、既に外部指導員の方が入っておられますが、その外部指導員の方の参加の幅はより広くなるということ、これが私、鉢盛モデルということだというふうに認識をしております。

ですので、先ほど村山委員が、広域性ということは特に鉢盛だけが特別というわけではないのではないかということはそのとおりだというふうに思っていて、松本市内のほかの様々な形態のクラブがあって、それぞれのクラブに参加するに当たっては、例えばですが、既にスタートしています軟式野球でいきますと、4校か5校が1つのクラブをつくって、学校の区域を超えた練習や施設の利用ということが行われていますし、またバドミントンというのは、鉢盛はありますけれども、松本市内にほとんどなかったものですから、生徒の人気種目であるバドミンントンのクラブを試行的に立ち上げて、ここにはかなり遠いところから来て参加するという方がいらっしゃるということで、広域性というのは、今回学校単位でなくするということになりましたので、ある意味必然的にいろいろなモデルケースの形によっては起きていることでもあります。

そうなる、この送り迎えの問題というものが、もともとこの鉢盛の場合は、先ほどお話にあったような送り迎えが既に存在していたということです。ほかの町なかの比較的人口密集エリアの学校ではこれまでは起きていなかったのですが、いろいろなクラブに参加するということになりますと、鉢盛で行われたような送り迎えというのが、ほかのエリアでも日常

的になるということになります。そのときに、その送り迎えというのは一体どこまでサポートができるのかという、その仕組みは何か考えられないのかということは、松本市においても一つの議題になっているところであります。

もう1点の、部活動がなくなることによる生徒あるいは先生とのこれまであったコミュニケーションが損なわれる部分がどうしても出てくるのではないかという点は、少なくとも学校の単位で見ると、そうした指摘は考えなければいけない点だと思います。部活動だけではなくて、今、様々な課外活動、あるいは本来の授業以外の昔あった学校行事であるとかスキー教室とか、そうしたものへの参加が、かつてのようなことではなく任意に選択制になっているような学校なんかも広がっていますので、そうしたことが少なくなり過ぎることのマイナス面というのは、この前の松本市議会でも議員の皆さんから指摘が出ていたところでありますので、この地域移行の根本のところにあります教職員の皆さんの業務が過剰になって、本来の学びの子供たちへの支援、授業を中心とした部分により先生たちが力を注げるようにするということが最も土台にはなりますが、そのことによってそぎ落とされてしまう部分をこれからどうしていくのかということは、今回の地域移行に当たっての私たちに課せられた課題だと思っていますし、それを従来のように学校の中、あるいは学校の先生だけということではなく、地域や学校以外の皆さんの関わりを、子供たちへの関わりをより大きく強く広いものにすることで、どうやってこの担っていた部分で損なわれないようにするかということを私たち、私も考えていかなきゃいけないところだなと思っています。

中川先生から、今いただいた点についてももしご発言ありましたら。

○学校長（中川満英） ありがとうございます。

やはり学校としては、今、村山委員のほうでお話しされたような子供たち同士、子供と先生方とのコミュニケーションということで、そういうようなところが不足していることは否めないかなという感じがしています。そのところを、授業はもちろん、総合的な学習の時間や各行事、生徒会活動を通してより活発にしつつも、それをどのようにさらに、子供たちにとってはかなり大きなウエートを持っていた部活動ですので、どのようにしていくかはこれから学校づくりの大切なポイントとしてまた考えていきたいと思っています。

以上であります。

○管理者（臥雲義尚） 中村委員、ご質問お願いします。

○教育委員（中村八重美） この地域移行のお話を聞いた当初は、一体どんなふうになっていくんだろうなというイメージが私自身なかなか持てなくて、いろいろお聞きしている中で、鉢盛中学校は松本市の方針に沿いながら準備を進めていきたいと思いますという感じで来たんですが、より具体的になってきたかなというのを感じております。

それと、今、市長さんのお話の中で、本当に鉢盛中学が地域性の中で独特な学校の雰囲気というものを持っているかなと思っているんですが、限りなく継続するようできて、その中の今の部分も継続していくというところがすごくほっとしたというか、地域の中でなかなか

指導者を見つけるのも大変な状況ですが、でもまたそれを1市2村で検討しながら、より子供たちが健やかに育てられるような後押しや応援ができたらいいなと思っているところです。

それで、今後、鉢盛中学だけではなくて、もっとほかのことを学びたいといったときに、送迎のこととか、それから指導者に払う時給の関係が、今、新聞報道では時給1,100円ぐらいが平均ではないかという話も少し出ているようですが、それはまた地域それぞれの中で検討されていくのかなと思っているところです。指導者に払うお金も、今までは学校の先生たちに本当にご負担をかけながらご指導していただいた部分が、今度保護者に月1,500円から4,000円ぐらいと上がっていたのですが、こちらの資料のほうにも補助金が2万4,000円とかと出ていますが、できるだけ経済的に支援を国や県や市町村で検討していただいて、保護者の負担をできるだけ軽くしていただくような方向で、子供がやりたいということ、選びたいというその選ぶ枠も広げてあげて、もうこれしかない、あなたの好きなものはできないのではなくて、時代の流れの中で部活動の内容も変わってきて、今の子供たちが何を望んでいることも昔とは変わってきていることは事実なので、そこを見極めながら、昔はこうだったからこうではなくて、今を見ながら前に進んでいけばいいかなと思っています。

ですので、できるだけ子供の立場、思いを大事にしていただき、それから新しいことをスタートするには、これでよしと思っても、必ずいろいろなことに直面してくるので、ぜひ保護者の意見を聞いていただいたり、子供の意見を聞いていただいたり、その都度検討して修正しながら、よりよいものを13年度までにつくり上げていただけたらいいかなと思っています。

今日、本当にいろいろお話がお聞きできてよかったですと思います。ありがとうございました。

○管理者（臥雲義尚） ありがとうございます。

今、中村委員がおっしゃった、特に最後におっしゃった、今までの在り方を新しい在り方に変えるということで、1つは、まずは移行する期限のめどというのを立てないと、これは今度子供たちにとっても、また新たに指導していただく団体だとか個人にとっても、なかなかいつ始まるか分からないとなると余計に不安がかき立てられたり見通しが立たないということになりますので、今までいついつまでにこうしますというふうに申し上げて先に進んできました。

一方で、今、中村委員おっしゃったように、じゃそこまでに決めたことは完璧なのかということとは全くありませんので、取りあえずスタートをさせた、そしてやっぱりこういう部分は見直しが必要だと、あるいはそれは自分たちからすればこういう声を聞いてもらいたいということについては、常に門戸を開いて耳を傾けてということを進めていかなきゃいけないと思います。

それと、今回このプロセスを進めるに当たって、学校現場で今まで部活動を全面的に引き受けてきた教育委員会や学校の先生方と、それと地域移行するのであれば、今度は学校の皆

さんと共に受皿になったり、あるいは指導者として参加をしようという気持ちのある学校の外の団体とか個人の皆さんの動きと、この2つの動きをうまくマッチングをさせてやっていくというのが今回の一番大事なことでしたし、また難しいところでもございました。それはこれからも両方の部分が協力しながらやはりこれは進めていくことになりますので、よりよいもの、もっともっと子供たちのためになるものをということを毎年毎年しっかりと皆さんと確認をしながら進んでいくことが必要だというふうに思います。

伊佐治教育長、今、中村委員から費用負担の問題、これは今まで学校の先生方が無償に近い形でされていたこととは違う形になりますので、そうしますと一定の費用負担がご家庭、保護者の皆さんにかかるということは前提にはなりません。そのときのその負担の在り方というものを今どう考えていくのかと。これは現時点ではどうなっているか、基本的な形をお話ししていただけますか。

○教育長（伊佐治裕子） 少し話が最初ずれるかもしれませんが、先ほど市長がおっしゃった、鉢盛の場合は限りなく移行するようで移行しないようなイメージという話があったと思うのですが、多分鉢盛の中学校の部活移行は、みんなでこれは話し合ってきたことですから、学校を拠点として行っている子供たちの活動という点では、一見変わらないように思われる、それを整えていこうというのが、これまで議会の皆さんと話をして整えてきた案だと思うんですね。だけれども、決定的に違うのは、今ご心配いただいた費用負担ということだと思います。

この費用負担というのは、指導者、指導していただいている方というのが、これまでは学校の先生が全くの無償労働でやっていたものを、そうではない形にするに当たっては、その費用はどうか、そうするとそれは個人負担という形で負担をしていただき、そして一定の家庭的な経済状況によっては、それを公費でそれぞれの自治体が家庭への補助という形で補助を出していく、それがベースになっていくと思います。

目に見える形で費用負担ということで出てくるのはそういうものだと思いますが、実はそれ以外にも派生してくる見えない費用負担というのがあると思っています。それは、これまでは学校で配属をされた先生を、校長先生が校務分掌の中であなたはこのクラブをやってくださいねということで、子供たちのニーズに合わせて部活動を立ち上げて、先生のマネジメントの中で担当を決めてやっていたものが、今度はそこから外れるということになると、子供たちのニーズに対してどういう人をどこから指導者を連れてきて、それを結びつけてどこに配置するか、それから実際に活動をいつやりましょうかとか、大会はどこに参加しましょうかとかという実質今まで先生が担ってきたことを、細かいコーディネートの部分ですよ、それを費用は出ないかもしれないけれども、誰がやるかといったときには、校長先生や先生方がやっていたものを誰かが負担しなくてはいけないということになってきます。それが今回、鉢盛の場合でいうと、一定の業者にそれを業務委託という形で出して行っていたのがいいのではないかと、そこまでみんなで検討を進めてきたということだと思います。

す。

なので、戦後70年以上続いてきた日本の公立中学校における部活動というのは日本独特だということでみんなで勉強会をしてきましたけれども、それを変えていくということは、かなりみんなのマインドセットというか、それを大胆に行わないとできないことだなというふうに思っています。

それから、私がいつも懸念しているのは、鉢盛中学校で議会のときや教育委員会のときに、校長先生から部活での子供たちの活動の成果発表をしていただきますよね。そうすると、松本市内の中学校と比較しても、格段にいろいろな大会に出て行って幅広い活動で活躍している生徒が多いということを感じていましたので、この鉢盛の中学校の子供たちが持つ潜在的な能力とかも含めた能力を、いかにその環境を整えてあげられるかというのは、本当に私たち教育委員会や管理者や、それから議会の皆さんが工夫をして、そして正解はまだ分からなくて、さっき中村委員がおっしゃったように、一旦始めたけれども、どうやらうまくいかなそうだというふうに思ったら、柔軟に土壌を変えて、また環境を整え直していくという、そのようなことがこれからも必要なのかなということを感じております。

以上です。

○管理者（臥雲義尚） 百瀬教育長、朝日村で、先ほども少しお話があったと思いますけれども、学校の先生以外でこの鉢盛クラブのそれぞれの指導に当たる人たち、これが松本市もそうですけれども、どういうふうに掘り起こして、参加をしてもらえるかということは一つのポイントなんですけど、朝日村においてその点については、どう手応えや課題を感じておられるでしょうか。

○教育長職務代理者（百瀬司郎） なかなか難しい状況の中にいるのが現状ですけれども、そういう中で、今の中学生の置かれていく状況というのをその方たちにご理解をいただくことがまず第一で、ある意味では今まで当たり前のようであった学校の先生たちによる部活がすっとなくなるわけですから、そここのところの地域としての中学生の受皿を何としても確保したいということをとにかくいろいろな場で訴えていくということがまず大事で、そういった団体の方たちの集まりを何回か取りながら、少しずつ、1つでも2つでもそういう団体を増やしていくということがどうしても必要なかなというふうに思います。

いずれにしても、現在中学生が置かれていく状況をみんなが理解していかないと、やっぱりそれは大変だよなという思いから、中学生を何とか受け入れようというような空気になるまでは時間も必要でしょうし、しかしそこを理解していただくことがまず大事だというふうに思います。

以上です。

○管理者（臥雲義尚） 根橋教育長、松本市においても、子供たちと実はある程度の年配の方々が増やすことは、もちろん子供たちのためにもなるのですが、年配の方々も現役の仕事を持っている方、あるいは仕事をリタイアされたけれども、いろいろな関わりは持つ

ていただける方、そういう方々にとって、ある意味今回、学校から子供たちが外に目を向ける形になることで、地域の生きがいを持っていろいろな活動に参加していただける幅がもし広がるのであれば、非常にそれはプラスの面になると思いますが、山形村においての地域移行の周りの皆さんの受け止めとかそういうことは、現時点ではいかがでしょうか。

○教育委員（根橋範男） 子供にとっても、それから地域にとってもウィン・ウィンな関係がこれで作れるかということ、なかなか大人の側がそこまでは理解されていないと思います。こちらも十分説明できていないということもあるものですから、ただ、考え方としては、やっぱり地域の中でそうやって大人が地域の子供たちと関わるということは、子供たちにとってはとてもリアルな体験だったり、本当に生きる力につながっていく大きなものになるなどということは思っています。

ですから、こちらとしてはやっぱりもう少し丁寧に説明をしていくことと、それから今は事務局段階で、直接説明をしてお願いをしているという状況なものですから、引き続きそれも続けながら、団体の皆様がお集まりのときに機会を捉えて、部活動の地域移行ということだけではなくて、これからの地域社会をつくるという面でもご理解をいただくような説明が必要かなというふうに思っております。

○管理者（臥雲義尚） ありがとうございます。

あと、中川校長、休日の活動を踏まえて、そしてその先に見据えている平日までも含めた移行の課題、問題というのは、共通面もあると思いますし、また相違点もあると思いますけれども、現段階での休日、その先にある平日というのはどういうふうに頭の中では描かれていますでしょうか。

○学校長（中川満英） 休日は職員もお休みの日でありますので、勤務時間ということでは、手当というか補償があれば先生方も協力してくれるところも、先生方の中でももしそういう体制ができれば、子供たちが好きで教員になっているのでやりたいという先生もいるんですけども、やっぱり平日はどうしても6時間授業で、生徒を帰すとなると4時半になるわけで、4時40分の勤務時間終了というのは無理な話なので、そここのところの難しさは、先生方も目の前の子供たちといいコミュニケーションを取ったり、一緒に笑ったり、いろいろしながらやりたい気持ちはありますが、なかなか時間的なところが苦しいと思います。

以上です。

○管理者（臥雲義尚） あと、村山委員、中村委員、今までの話を改めて聞いた上で何かご質問やご意見があれば。

○教育委員（村山晴美） 先ほどお話をいただいた、部活動に少し近い形で実際は鉢盛クラブはきっと運営が始まるだろうという中で、何か課題があったときはアップデートしていけばきっといいのかなという面も多々出てくるのかなという感じは、話を伺ってより感じています。

ただ、やはり部活動に近い形ということですので、そこに赴任されている先生は固定では

ないわけで、転勤がどうしてもあるという形になりますので、そのときにどうするかといったことも、例えば今はこの部活を担当されている先生はその専門をやられてきた経験があるのでいいけれども、転勤したら別の先生が、同じような経験のある先生が配置されればいいですけれども、そういったことがなかったときにどうするかということも予想を立てながら、やっぱり鉢盛クラブとしては考えていくところだろうなということ、ほかの地域クラブのところもそういったことは、教職員の皆さんでやってもいいよという方の声が上がったときに、やっぱり転勤があるとこの地域には貢献できないよというふうになることは考えられるのでということを感じました。

あと、お話を伺いながら感じたことと、2点ありまして、1点は、小学校5、6年生の子供たちにどういった活動に参加してみたいですかというようなお話があったときに、回答率がまず60%弱ぐらいであるということで、そこからさらにやりたい種目があるか分からないからと半数のお子さんが答えているというようなことがあったということなんですが、そもそも44%の方が答えていないという形になるので、部活というものから少し離れているお子さんも多いのが実態かなと。いわゆる昔でいう帰宅部という形に当たるお子さんも増えているのかなと。何か活動しようというお子さんのことは支えようということがみんなの意識にあるんですけども、そうでないお子さんが増えていくのではないかということに対して、何か地域として人格形成期の子供たちを支えるといったところの視点もやっぱり忘れてはいけないのかなとちょっと思いました。自分たちの頃はほぼ部活動に参加するのが当たり前という世代から、やっぱり変わってきているのだなということを改めて感じたことが1点です。

もう1点が、鉢盛クラブは地域コーディネーターを民間委託業者さんをお願いしていく方向ですということが決まっていますので、その中でどういうことを盛り込んでいただけるかということで、幾つか民間の事業者がいると思いますが、考えていかれるというようなお話も今までの委員会の中で伺っています。それで、実際にお隣の市町村とかも含めて、いろいろなところと多分コンタクトをされている時期ではないのかなと。ちょっといろいろ検索とかをしてみますと、例えば今、本当にプロスポーツチームを運営しているところが、中学生の指導、部活動移行も含めたところも考えて参入しようとかというのも幾つもヒットしてくるわけで、そういうところの中で、どういったところがこの鉢盛のコーディネートをしていただく、あるいは長野、松本市、朝日村、山形村にあるクラブ運営に移っていくであろう皆さんが運営していただくのがいいのかというようなところ、その辺も周囲の市町村との情報交換なんかも積極的にしていただきながら、みんながそれぞれ全然違う、独自のというよりは、方向性としては同じような悩みを持っているところは同じような解決ができていくのがいいのかなというふうに感じました。

○管理者（臥雲義尚） 今いただいてご指摘の中で、中川校長、いわゆる帰宅部というような形の生徒さんは、現状においてどのぐらいいらっしゃるのか。

○学校長（中川満英） 今の1年生の生徒は、6年生のときにこういう地域移行というのが始まりますよということを説明して入ってきていますので、それで今、本校で入っているのが多分66%ぐらいです。それから34%は入っていませんが、でもその中の幾らかは、シニアの野球をやったり、サッカークラブに入ったり、硬式のテニスをやっている生徒もいて、という状況であります。

ただ、部活動というものに入っている数は、今の3年生が多分9割ぐらいは入っていましたので、2年生が8割ぐらいで、さっき言った1年生が66%ぐらいが部活動には入っている。

○管理者（臥雲義尚） そういう意味で言うと、やはり我々がこの地域移行という方針を示して、そちらに移行するというので、今年の1年生なんかは3分の2ぐらいが部活のほうに参加になっているということですね。

○学校長（中川満英） そうですね。

○管理者（臥雲義尚） 逆にちょっとその後1年遡ると、やはり9割ぐらいはみんな部活に入っていると。

○学校長（中川満英） 入っています。

○管理者（臥雲義尚） それと、このアンケートというのは、これは教育委員会ですか。それとも学校なんですか。このアンケート。

○事務局次長補佐（降籬 基） 組合教育委員会でやっています。

○教育長（伊佐治裕子） 教育委員会事務局で、それぞれの2村の教育委員会とも協力して行っています。

○管理者（臥雲義尚） これは今度、先ほどのご指摘のように、小学校5、6年生で、その子供たちにアンケートをして、回答率がまずこの56%にとどまっているということは、これはどういう意味を持つと考えればいいですか。先ほど、村山委員から見ると、そういう回答率の低さそのものが部活なり地域クラブへの関心度の低さということを表しているのではないかという指摘がありましたが、それは実際にアンケートをやった当事者から見ると、この回答率56%という数字はどう見るかという。

○教育長（伊佐治裕子） これは中学と小学校で回答率というか、母数の中での回答率というのは。

○事務局次長補佐（降籬 基） 小学校のほうはほぼ回答をいただいでいて、鉢盛中学校のほうの主に2年生の回答率がすごく低いという。

○管理者（臥雲義尚） そういう意味でいうと、もう既に自分たちの選択が決まっているので、だからこのアンケートに答えてもあまり意味を感じないということですね。これから目指す小学校の5、6年生はそれなりに皆さん回答してきていると、そういうことですね。分かりました。

あと、これは伊佐治教育長にお聞きしたほうがいいかなと思いますけれども、コーディネーター業務をどういう人たちに委託をしていくのか、あるいはどういうことを原則的な方針

として委託先というのを選んでいくのかという点については、今の段階で何か方向性としてはあるのでしょうか。

- 教育長（伊佐治裕子） 多分村山さんが想定されているのは、地元の事業者ですかね。
- 教育委員（村山晴美） それも聞いたことがありますね。ほかにも、全然地方が違うところも、結構距離感のあるところからそういった活動のサポートはできるというような発信をされているところがあるかなという感じで。
- 教育長（伊佐治裕子） 現在、松本市も、全国展開している、ノウハウを持っている事業者さんに受けていただいているのですけれども、全体的によくやっつけていると思うんですけれども、担当者から聞いているのは、やっぱり地域特性というか、地域事情というようなことを、この委託が始まった当初はやっぱり慣れない部分があって、そこはうまくマッチングできていなかったという部分も、だんだんに多分習熟していらっしゃると思うんですけれども、鉢盛の場合はより、松本市全体よりも狭い範囲ということになるので、もしできたらその地域の事情を知っていらっしゃる民間事業者で、幅広いノウハウを持ってやってくれそうところが望ましいと思うんですけれども、この部活の地域移行自体、私たちがさえもまだ模索をしている段階で、民間事業者はいろいろな情報を、全国的にいろいろなことを収集して、どうやれば自分たちが事業として展開できるかということは研究していらっしゃると思うんですけれども、まだまだその事業者自体も、ここだったら大丈夫というところが決定的なところで刺さっていないということが現状だと思うんですね。なので、もしできたら今お話ししたように、地域の事情を知っている団体と私たちが官民共同のような形で、お互いに相談しながらよりよい形を探っていける、そんな事業者がいれば望ましいかなというふうに思っています。
- 管理者（臥雲義尚） 分かりました。

そろそろ予定した時間になりますが、何かご発言ある方は最後にいただければと思います
が、いかがでしょうか。

- 教育長（伊佐治裕子） すみません、1つ情報ですが、松本市でこの部活地域移行の協議会という会議を持っています。有識者の皆さんですとか学校の校長先生にも入っていただいているんですけれども、先日会議をしたばかりですが、そこで出されたことの中に、今日の話
題に通ずるようなことも意見が出ていました。1つは、やはり送迎のことに関する保護者の
皆さんの不安です。PTA連合会からも2人の方が出ているのですが、松本市も
おととしに続いて松本市全体のアンケートを取ったのですが、保護者の皆さんの心配事で圧
倒的に1回目と2回目で違ったのが送迎に対する不安、いよいよこのことが来年度から始ま
るといふときに、ご夫婦とも働いていらっしゃるご家庭が多いので、迎えに行くことはでき
る、さっきもお話にありましたけれども、迎えに行くことはできるけれども、仕事をしてい
るときに、平日、学校が終わった後、夕方その会場まで、例えば鉢盛だったら学校が終わっ
た後に、5時頃に松本市内のどこかまで送ってくるということはほぼ難しいというふうに、

そこで心配されている保護者の皆さんから言われました。だから、そのことは深刻に捉えていくべきだと思います。だからこそ、先ほどのように子供たちが通える範囲で地域拠点、活動できる拠点をつくっていかなくてはいけないということが浮き彫りになったと思います。

それから、もう一つが、さっき自転車のことをおっしゃられましたよね。これは代表で出ている校長先生から出たお話は、中学校の場合は自転車通学を各学校のルールで決めて行っているんですけども、自転車を活用して移動できる場合は、そのルールをみんなでもうちょっと課題を整理して、こういうルールでやっていきましょうとすれば、そこでカバーできる部分があるかもしれない。日が長いときは自転車を活用して、日がもう短いとき、今みたいなときは、もう冬は平日はやらないとか、いろいろな方法が考えられるのではないかというふうなことで会議のときに意見が出ていましたので、またそれもこの鉢盛も参考にしていきたいと思っています。

○管理者（臥雲義尚） ありがとうございます。

様々な観点からご指摘をいただいたり現状を報告していただいたことで、今我々がどういう地点に立っていて、そしてどういう方向に進んでいかなきゃいけないのか、そして進んでいくためにはどういうことが課題で、どうやってそれを解決の方向に向かっていくのかということがかなり整理をされた、焦点が明確になったというふうに私自身も感じました。

それと、鉢盛のケースは比較的、部活動の継続型だということを申し上げましたが、ということは、裏返すと、先ほど村山委員のご指摘にあったように、今までの部活動でも起きていたマイナス面、それは例えば先生が替わる、そうするとそれぞれの部活の熟度の高い先生では必ずしもない方が来られることへの生徒の満足度の低下とかいったようなことというのは、今までもありましたし、そういうところを一定程度引き継ぐことにもなると思います。

また、休日と平日の部活というものを、これからどう在り方として、全く同じものとして見ていくのか、それとも違うものとして整理をしていくのかという視点を、これは子供の目線側もそうですが、指導者の在り方や、場合によっては今の送迎の話にも通ずるところとして、非常に考えていくポイントになってくるというふうに感じました。今、段階的に休日を先行して進めようとしているわけですが、これを進めながら整理をしていく必要があるなというふうに感じました。

いずれにしても、いろいろな地域の事情によって子供たちのチャンスが必ずしも平等に与えられないと、これはスポーツ文化活動だけではない、ほかの面でも様々ありますが、この松本市、松本平に共に住んでいる子供たちにとって、機会の平等というものがちゃんと保障され、しかもその保障されているレベルが、ほかの地域よりも高いレベルで保障されているというふうに思っただけにするということが私たちが目指すところだと思いますので、教育委員会、学校現場、そして地域や民間のクラブを支えている人たち、皆さんが同じテーブルに着いて、よりよい方向に進んでいけるように進めてまいりたいというふうに思っています。

今日は有意義な意見をいただきましてありがとうございました。また引き続きよろしくお願いたします。

○事務局長（赤羽志穂） ありがとうございました。

本日の内容については、議事録を公表するとともに、2月17日開催予定の2月定例会においても、委員の皆様へ報告していく予定でございます。

◎閉会の宣告

○事務局長（赤羽志穂） 以上をもちまして、令和6年度第1回松本市・山形村・朝日村中学校組合総合教育会議を閉じます。

ありがとうございました。

会議録調整職員 松本市・山形村・朝日村中学校組合 主事 三浦 佑太